

# これまでの創作狂言公演

千葉県内に伝わる民話や伝承を題材として、狂言として創作し公演を行ってきました。

これまでに千葉笑い（千葉市）、羽衣伝承（千葉市）、鬼来迎（横芝光町）、ヤマトタケル伝承、八幡の藪知らず（市川市）、南総里見八犬伝の伝承などを狂言として創作してきました。

## ◎千葉笑い（千葉市）

- 平成17年12月 新作狂言「新千葉笑い」
- 平成18年12月 新作狂言「新千葉笑い」
- 平成19年 2月 新作狂言「抱腹絶倒ちばわらい」
- 平成23年12月 創作狂言「千葉わらい」



千葉寺（千葉市）

太郎冠者のひそかな楽しみは、毎年大晦日に行われる「千葉笑い」。素性を隠した民たちが千葉寺に集まり、悪口雑言に興じて朝まで笑い明かす天下の奇習です。ところが、この地の殿様は千葉笑いを良く思いません。家来の太郎冠者が千葉笑いに行っていると聞いた殿様は、太郎冠者を呼び千葉笑いについて聞き出そうとします。これは厄介と考えてシラをきる太郎冠者に、殿様は用事を言いつけます。しゅしゅ承諾した太郎冠者でしたが、あきらめきれず千葉笑いへ向かいます。一方、疑いを捨てきれない殿様も、みずから仮面をつけ身分を隠して、同様に千葉笑いへ向かうのでした…。



公演の様子



## ◎羽衣伝承（千葉市）

平成19年12月 創作狂言「千葉の羽衣」

平成25年12月 創作狂言「はごろも かたり」



羽衣公園の松（千葉市）

羽衣を奪われた天女が奪った男の妻になるという羽衣伝承は全国各地に見られますが、千葉県ではその男がかつて上総下総一帯を支配した千葉氏の当主であるとしています。また、妙見信仰や「千葉」という地名の由来とも結びついているという点は、全国でも珍しいものです。千葉県に伝わる羽衣伝承に取材しながら、三保の松原を舞台とした能「羽衣」とも異なった、笑いのみならず人間味にもあふれた創作狂言しています。物語は、下総国池田の郷の男が月夜の晩に池田の池を訪れるところから始まります…。



公演の様子



## ◎鬼来迎（横芝光町）

平成20年11月 創作狂言「鬼の来迎」

平成24年12月 創作狂言「鬼来迎」



仏教劇鬼来迎（横芝光町）

娑婆の人間に信仰心がなくなったために、地獄はかつてないほどに大繁盛。人手不足に頭を悩ます閻魔大王は、獄卒を連れて自ら六道の辻へと赴きます。そこでは、生前悪事を重ねた亡者たちが責め苦を受けていました。自分たちの行いに懲りていない亡者たちに、閻魔大王は次々と裁きを下していきます。そこへ現れたのが、地蔵菩薩。慈悲深いと評判の地蔵菩薩の登場に、亡者たちは大喜びします。ところが慈悲深いはずの地蔵菩薩は…。



公演の様子



## ◎ヤマトタケル伝承



きみさらざタワー  
(木更津市)

平成21年12月 創作狂言「オトタチバナヒメ」

平成26年11月 創作狂言「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」

大和国（現在の奈良県）の皇子ヤマトタケルが、常陸国（現在の茨城県）を制服するためにやってきました。 わだつみの神と海の仲間たちは、彼が相模国（現在の神奈川県）から「内つ海」（現在の東京湾）をわたって 房総に行こうとしていることを聞き、どうしたものかと相談をはじめます。 そうとは知らないヤマトタケルは、三浦半島の走水に到着。 海に向かって悪口を並べ立てるヤマトタケルに、海の者たちの怒りが爆発し、よって たかってタケルを踏みつけてしまいました。それを聞きつけてやって来たのが、タケルの后オトタチバナヒメ。 愛する夫をボコボコにされて怒り 心頭のヒメは、ふがない夫を叱咤して、仕返しするよう追い立てます。 はたしてこの争いの行方は？



公演の様子



## ◎八幡の藪しらず (市川市)

平成22年11月 創作狂言「水戸黄門と藪しらず」

平成27年12月 創作狂言「やぶしらず」



八幡の藪しらず (市川市)

天下の副将軍水戸光圀が、誰も恐れて近寄らない 「八幡（現在の市川市本八幡）の藪しらず」 のうわさを耳にしました。 入ったら二度と出てこられないという禁断の土地に、光圀はあえて足を踏み入れます。 そこで見たものとは？



公演の様子



## ◎里見八犬伝

原作は、江戸時代の後期、読本作家曲亭馬琴によって著された『南総里見八犬伝』です。98巻106冊にわたる大長編のため、創作狂言化するにあたりシリーズとしています。

### 平成28年12月 創作狂言「里見八犬伝 其ノ零 (エピソードゼロ)」

室町時代末、結城合戦に敗れた里見義実は、安房（千葉県南部）に落ちのびてきます。山下定包やその妻玉梓を成敗し、滝田城主となった義実ですが、隣国館山城の安西景連に攻め立てられ窮地に陥り、愛犬八房に「敵将景連の首を捕ってきたら娘の伏姫を嫁にやる。」と戯言をいいます。見事敵将の首を捕って戦いを勝利に導いた八房は、約束通り伏姫を連れ、富山の洞窟にこもり暮らすのですが…。



公演の様子



公演チラシ



公演ポスター

### 平成29年12月 創作狂言「里見八犬伝 其ノ壱 (エピソードワン)」

愛犬八房の妻となった伏姫が自害し、八つの玉が四方に飛び散ってから数年。犬塚信乃は、父の死によって、足利家の宝刀村雨丸を受け継ぎます。その際、「孝」の字が浮き出た玉と、ぼたんの花の形をした痣も得た信乃は、引き取られた伯母夫婦の家で、自分と同じ形の痣と「義」の字の玉を持つ額蔵と出会いました。義兄弟の契りを結んだ二人でしたが、やがて信乃は、村雨丸を献上するために、許嫁の浜路を置いて旅立つことに…。



公演の様子

